

でんでら通信 第百四十四号 令和八年四月

坐禅会

四月二十九日(祝) 十時より開催します。
みなさんのご参加お待ちしております。

新聞投稿より

新聞には、時に「うーん！」と思わず考える一般読者からの投稿があります。そんな投稿を紹介させていただきます。



悔いの残らない生き方

歯科医師 65歳男性

還暦を過ぎた頃から常に思うことがあります。

「いつまで体が自由に動くだろうか」

「ひよっとして明日、死ぬかもしれない」・・・

そんな時に「65歳からは『後回ししない人』になる」という書籍を読み、目に留まった箇所がありました。

それは「人生で時間とお金と健康の三つがそろふことは難しい。だから、二つでもそろったら、やりたいことをやりなさい」という一節です。

一般論ですが、若い頃は健康と時間がありますが、お金がありません。働いているときは健康ですが、時間とお金がありません。子育てが終わる頃にはお金と時間がありますが、健康に不安もあります。

高齢者への調査で「一番後悔していることは」の問いに、トップは

「もっと冒険しておけばよかった」

という内容を目にしたことがあります。

私はこの本をきっかけに行動を始めました。人生に悔いを残さないように、いろいろなことに挑戦していきたいと思います。

これからは挑戦される高齢の方々が増えてくることでしょう。今を大切に、限りある与えられた命を生かしながら毎日を過ごしたいものです。

一生を終えてのちに残るのは

神奈川県 会社員 50歳

20歳のころ、三浦綾子さんの小説を夢中で読みました。「続氷点」に「一生を終えてのちに残るのは、われわれが集めたものではなく、われわれが与えたものである」という言葉がでてきます。

当時はよく理解していませんでした。お金がたまれば車を買ひ、家を買ひ、果てしないコレクション魂が人間の悲しい性(さが)ではないかと。

20代後半で父が、数年後に母が他界しました。苦労を重ねた両親の人生は何だったのか。かわいそうに思えてきました。いずれ身内や友人もこの世から消え両親が人々の記憶からも消えていくことが。

30代後半になり、あの言葉を思い出しました。手元に「集めた」ものは、自らの死とともに消えてなくなるでしょう。でも、「与えた」ものはそうではないと考えるようになりました。両親から受け取っ

た有形無形の施しを、自らの肥やしにするだけでなく、たすきリレーのように次の世代に伝えていく。

これこそ、自分が生を受けた意味なのかもしれない。

自分のしがたない人生は、何百万年と続く人類の営みのほんの一瞬です。残したいものは何なのか。考えながら子どもと接する日々です。



私も年をとったのでしょうか。「時間は限られている」ということを最近多く感じるようになりました。これからの人生が、どんな状態になろうと、与えられた命を無駄にすることなく、心して過(こ)さねばと思います。

また振り返れば、私たちは「オギャー」とこの世に生まれた時から、食することもトイレの仕方も教えられなければ上手にできませんでした。何一つできないことに親や周りの人が根気よく教えてくれたおかげで、不自由なく生活できております。私たちはその与えられたものを次に返していかなければなりません。

子どもを授かり孫ができて、年を重ねてきた今、両親がしてくれたこと、言っていたこと、思い出されて涙しそうになります。

本山団参へ行ってきました

三月十一日、本山妙心寺へ行ってきました。興祖微妙大師六百五十年遠諱団参として二十五名の参加でした。当日はとても良い天気にも恵まれ、参拝、拝観には、うってつけの日でありました。また、午後は北野天満宮の梅苑で、お茶とお菓子をいただき、梅を愛でできました。大きなハプニングもなく無事に帰ることができました。ご参加ありがとうございました。